

教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。

## 2016(28)年 週 報

12月11日

「救い主の預言と成就」

第2聖日

第3485号

聖  
言

すべての人を照らすそのまことの光が世に来ようとしていた。・・・ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。 ヨハネ1：9、14

主の弟子となる<sup>20</sup>

第三課 基本原則 鍵となる引用を読んで考えましょう  
論点を考える

何かを学ぶためには、基本原則をマスターしなければ、さらに複雑な事柄を学んでいくことはできません。算数の初歩を知らずに高等代数をやろうとしているようなものです。しかし、今日私たちは、学校で習う教科の基本を殆ど学ばずに、学校を卒業しています。ですから、クリスチャン生活を始める場合でも、あちらこちらと断片的に取り上げてよしとしてしまうのです。これらは、私たちが目指して新しい信仰のあり方ではありませぬ。この天を正しく理解しておくことが重要です。私たちが提示している土台は、私たちの将来の歩みのすべてを形造るからです。以下の質問は、初歩の原則についてのより深く考えるためのものです。

話し合いの前に論点を考えて見ましょう。

① あなたの人生で、基本原則、すなわち、新しいやり方を学ばなければならなかったのはいつでしたか。新しいスポーツを始めた時を考えましょう。

② 信仰を基本原則を学ばないと、どのような問題が生じますか。

③ キリスト教の基本原則に精通するために、どのような献身が必要とされると思いますか。どのくらいの期間が係りと思えますか。(CIBTE主の弟子)

祈りのお願

教会の後継者、神学生があたえられるように  
一つ心になって互いに従順に神と人々に仕えるように

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru\_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

「霊に従って歩むもの」

「肉に従う者は肉のなことをもつばら考えますが、御霊に従う者は御霊に属することをひたすら考えます。」（ローマ八ノ五）

【口語訳】

なぜなら、肉に従う者は肉のことを思い、霊に従う者は霊のことを思うからである。

【新共同訳】

肉に従って歩む者は、肉に属することを考え、霊に従って歩む者は、霊に属することを考えます。（ローマ八ノ五）

序論

人生観について、普通三つの考え方があると言われています。

- 1、この世に存在した、たった一つの自分であるから、自分が納得する人生を生きよう
  - 2、人のために役立つことはたいせつであるから、出来るだけひとのためになるように生きよう
  - 3、無理をすれば、後から問題を起すから、人に迷惑を欠けない程度で、平均的な生き方をしよう
- この三つは立派な生き方です。しかし、
- 1、は、「この世に存在した自分とは」何であるかを発見しなければなりません。「納得する人生」も決めなければなりません。
  - 2、は、「人のために役立つこと」は何かと考えるなら、あまりに多すぎます。「出来るだけ」は曖昧で、こんなことで良いのかと自己嫌悪に陥ります。
  - 3、は、「無理」とは何か？「人に迷惑を欠けない程度」の「程度」も分かりません。

「平均的な生き方」とは、この世の良く使う言葉で、非常に曖昧です。

結論

1、肉に従って歩むものゝ肉に属することを考える

肉の行い  
不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ、酩酊、遊興（ガラテヤ5：19-21）

2、霊に従って歩むものゝ霊に属することを考える  
御霊の実

愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制  
3、「肉の思いは死であり、御霊による思いは、命と平安です」（ローマ8：6）

4、「肉の思いは、神に対して反抗する者」（ローマ8：7）  
5、「神の御霊に導かれる人は、誰でも神の子供です」（ローマ8：14）

二〇一六年二月四日午前一〇時 礼拝 山本 稔牧師  
「光を待ち望む」

彼は光ではなかった。ただ光についてあかしするために来たのである。すべての人を照らすそのまことの光が世に来ようとしていた。」（ヨハネ一ノ八、九）

クリスマスをまちのぞむアドベントに期間に入りました。アドベント・クラントのキャンドルに一週間に一本づつ明かりをともししていきます。キャンドルの温かな光は、この世界を明るく照らしてくださる救い主イエス様を表すと言われています。アドベントの説明はそこまでにして、イエス様のお生まれの時代は今から二千年前です。現在の欧米社会、民主主義でなく、

ローマ皇帝カイザルオウガストが世界を支配していました。ユダヤも皇帝から遣わされた総督ポンテオ・ピラトにより統治されていました。比較的宗教に寛容であり、エルサレム神殿の礼拝は認められていました。いや、ローマに税金を納める義務があるため、神殿礼拝により、ユダヤは民族意識を高めようとしたのです。自分の国でありながら、ローマ皇帝に従うことを義務づけられるということは、アブラハムの末であり、ダビデ王の繁栄を築いたことを知るかれらにとって屈辱以外のなにものでもなく、神殿礼拝で心の拠り所求めたのです。神様は彼らの悲しみをよく知り、神殿礼拝を司る祭司の中から、ザカリヤを選ばれたのです。祭司の中からくじで神殿の中で香を焚く任務を選びます。一生に一度の光栄ですので、祭司の数から考えると一度も香を焚くことができない祭司もあります。ザカリヤはしかも、高齢でありました。八〇か九〇歳であつたでしょう。香をたいっていると天使が現れ、「こわがることはない。ザカリヤ。あなたの願いが聞かれたのです。あなたの妻エリサベツは男の子を産みます。名をヨハネとつけなさい。その子はあなたにとって喜びとなり、多くの人もその誕生を喜びます。彼は主の御前にすぐれた者となるからです。彼はぶどう酒も強い酒も飲まず、また母の胎内にあるときから聖霊に満たされ、そして、イスラエル多くの子らを、彼らの神である主に立ち返らせます。彼こそ、エリヤの霊と力で主の前ブレをし、父たちの心を子どもたちに向けさせ、逆らう者を義人の心に立ち戻らせ、こうして、整えられた民を主のために用意するのです。そうです、ヨハネは救い主を人が心に御迎えさせる備えをさす、前触れを告げる役目に人物です。当時、ユダヤは最暗黒でありました。ローマ帝国により、物質的には安定していました。しかし、神様

を神殿で礼拝していましたが、本当に神様にお会いして、満たされています。律法の書を唱え、祈り、ささげものをしてよろこびはありませんでした。それすら考えずにひたすら義務的、儀式的に神殿で礼拝をささげました。そのような霊的暗黒の礼拝に真の光を指し示すためにヨハネが選ばれました。それも、高齢の夫婦が、ありえない、不可能な者を通して、神様は光をさししめせと言われたのです。あまりにもアメージングなことで、ザカリヤ自身も信じられず、口が話せなくなりました。神殿から出てきた彼を民衆は彼に何かあつたことがわかるほど、神々しい、神っていました。そして神殿の務めが終り、家に帰りました。その後、妻エリサベツはみごもり、四ヶ月間引きこもって、こう言った。「主は、人中で私の恥を取り除こうと心にかけて、今、私をこのようにしてくださいました。」エリサベツが祈っているとき、ナザレの町のマリヤに御使いガブリエルが現れて受胎告知をした。マリヤ最初はとまどつたけれど、「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の子と呼ばれます。ご覧なさい。あなたの親類のエリサベツも、あの年になつて男の子を宿しています。不妊の女と言われていたのに、今はもう六ヶ月です神にとつて不可能なことは一つもありません。マリヤはいった。「ほんとうに、私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおりこの身になりますように。」こうして御使いは彼女から去つて行った。そのコロ、マリヤは立つて、山地にあるユダの町に急いだ。このようにして、宗教的に暗黒の時代、神様はまず、ヨハネを誕生させ、光でなく、光を知らずものとしてくださいました。光も光を知らずヨハネも奇蹟的な誕生でした。

これは現在のわたしたちの神様をしる体験にもいえることです。神を知らずして、神を礼拝しているので、虚しさを憶えているかもしれない。それで神様はヨハネを遣わして光であるお方を知らされようとされました。まず、救い主の母となる光栄を受けたマリヤ自身もエリサベツが高齢出産をしたことを見聞きしたので、確信が与えられました。また、エリサベツ自身もヨハネが腹の中でマリヤのなかに宿る救い主を賛美した事にことにより、神が人の子としてお生まれになることを確信できました。ゆえにヨハネは腹の中にいるときから、救い主を伝道したのです。現代の最暗黒に最も必要なのは世を照らす救い主の存在です。「夜はふけて、昼が近づきました。ですから、私たちは、やみのわざを打ち捨て、光の武器を着けようではありませんか。遊興、酩酊、淫乱、好色、争い、嫉みの生活ではなく、昼間らしい、正しい生き方をしようではありませんか。主イエス・キリストを着なさい。肉に欲のために心を用いてはいけません。」(ローマ13:12-14)

二〇一六年一月七日午後六時半 祈祷会 山本稔牧師

「イスラエルに対する燃える愛」

「イスラエルが幼いころ、わたしは彼を愛し、わたしの子をエジプトから呼び出した。それなの、彼らと呼ば呼ぶほど、彼らはいよいよ遠ざかり、バアルたちにいけにえをささげ、刻んだ像に香をたいた。」(ホセア一ノ一、二)。

折角神の選ばれながら、偶像に心を向けるイスラエルに対しての神の悲痛な叫びである。これは今の世界の状態であり、私たち神に選ばれたクリスチャンの姿である。一日も早く、偶像の罪を悔い改め、神にのみ、心を向ける真の信仰者に成長しなければならぬ。

## 白い風

イルミネーションが  
聖堂にきらめき  
ひよどり越えから招かれた  
親しい顔や声が  
どこからともなく  
みちています

その日

鐘の音に

一人の信徒が階段を上る

ドアが開かれ

トナカイの鈴と

迎える人の笑顔と声

主のもとに

クリスマスツリーが

祭壇には花の香り

牧師の説教と

パイプオルガンのひびき

賛美する

合唱の歌声は

街の路地から道々を縫い

風につつま込まれた

よろこびが

はずんでいきます

クリスマスQ&A

Q一〇〇 キリストは神か人は①

イエス・キリストについては数多くの書物があり、興味深い研究対象として扱われています。でも、ご自分では書物も書いたこともなく、研究論文もありません。ところが、旧約聖書に多く残されている、このお方に関するものとされる預言のことばを組み合わせると重要な結論をみることができます。

神の御子イエス様 有名な箇所の一つは、イザヤ書にある救い主誕生の予告です。「ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。．．その名は『不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君』と呼ばれる。その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に着いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これをささえる。今より、とこしえまで、万軍の主の熱心がこれを成し遂げる」(九ノ六、七)その「名」とありますが。名前は実態をあらわすものとして理解されているので、このお方こそ人類に対する「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」として役割を果たすべくお生まれになる存在なのだと言書は教えるのです。新約聖書ヨハネの福音書には、「ことばは人となつて、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光であり、このお方は「父のもとから来られた」という表現が用いられています。ふつう、人間が生まれたときは来られたという表現は使いませんが、イエス様にはそういう表現が使われています。つまり生まれる前から存在したという意味と、神と共におられた御子と言う意味が含まれています。(百万人の福音より抜粋)

クリスマス集会 十二月十八日(日)

クリスマス賛美礼拝 午前一〇時半〜正午

黄金聖句朗読

司会

一、前 奏

一、入堂斉唱(生ける者)

一、斉唱(くしき星よ)

一、聖書 朗読

(ヨハネ一ノ一〜五、一四)

一、祈 禱

一、祈 唱(ああベツレヘム)

(いざうたえ)

(天なる神に)

(今宵なりわたる)

(きよしこの夜)

一、一同 賛美(もろびと)

(荒野のはてに)

一、退堂斉唱(あめにはさかえ)

一、メッセージ「救い主の預言と成就」山本 牧師

一、一 同 賛美(まぶねのなか) 一 二 一 (二四頁)

一、感謝 献金

一、感謝の祈禱

一、頌 栄

一、祝 禱

一、会 食

庄司 姉  
庄司 姉  
有 志

一〇〇(三頁)

一一八(四頁)

小 段 姉(五頁)

櫛原 姉

一一五(六頁)

一〇八(七頁)

一一四(八頁)

二二二(九頁)

一〇九(一〇頁)

一一二(一一頁)

一〇六(一二頁)

八(二三頁)

大 内 家

一 同 (一七頁)

山本 牧師

山本 牧師

礼 拝 堂

山本 牧師

同 (一七頁)

山本 牧師

同 (一七頁)

山本 牧師

同 (一七頁)

山本 牧師

同 (一七頁)

山本 牧師

同 (一七頁)

山本 牧師

同 (一七頁)

山本 牧師



本日中にクリスマス食事を申し込みください。係り 大内姉

クリスマスチャン献金実施中

予算 五十三万円  
乞う 祈祷と協力

中国語の賛美

ワーヨーシャンシュンモー

我 要 向 山 举 目

(私は山に向かって目を上げる。)

ワデイ パーク ソンハイライ

我 的 帮 助 从 何 而 来 ？

(わたしのたすけは、どこから来るのだろうか。)

ワデイ パーゴ シトイエ ヤファア

我 的 帮 助

(私の助けは、)

カーヨン ダルヨゴスンジョ

从 造 天 地 的 耶 和 华 而 来。

(天地を造られた主から来る。)(詩篇一二二編)